

# エデュコ **Educo**

No.44  
2017年秋

作家  
**森 絵都さん**

巻頭インタビュー p.2



知っておきたい教育 NOW p.4

「社会に開かれた教育課程」とコミュニティ・スクール  
—教育課程を共有すること—  
「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

きょういく見聞録 p.8

0歳から15歳までの保・幼・小・中一貫校「富山学園」

地球となかよしトピックス p.10

海・森と共に生きる——  
「ふるさと唐桑を愛する子ども」の育成を目指して

Information 北から南から p.12

地球となかよしゼミナール p.14

「染井吉野」の謎解き 連載第2回

コラム p.15

高大接続改革について  
～新テストなど大学入試改革を中心に～

ほっとな出会い p.16

同時通訳者 **袖川裕美さん**

# 「小説と教育をつなぐもの」 それは「ことば」

作家 | 森 <sup>えと</sup> 絵都さん

## 小説『みかづき』の教育感

塾を小説の舞台にしたいと考えて、『みかづき』を書きました。王道的な学校からの視点よりも、少し脇道に入った塾からの視点で見たほうが、今までと違う角度で教育を捉えられるのではと考えました。また教育制度の変遷の裏に何があったのかを確かめたいというところもありました。

## 自主的に学ぶ力を引き出す

『みかづき』の登場人物には、モデルはいません。塾を開いていたことのあるかたなどからお話をうかがい、いちばんしっくりきたのは「子どもはみんな知的好奇心や自主的に学ぶ力をもっているから、いかにそれらを引き出してあげるかがポイントだ」ということです。そういう考えをおもちのかたたちの話をうかがって、「もしも自分子どもがいたら、こういうかたに教えていただきたいな」と思いました。知的好奇心を上手に刺激すると、子どもたちは自主的に学び始めます。そうい子たちは高校や大学に行っても強いんです。その一方で詰め込み式教育を重ねて大学に入った途端に折れてしまう子もいます。自主的に何かに向かう力をつけることが、広い意味で子どもたちの将来をよくしてくれるのではないかと思います。

## 子どもたちを支える環境づくりを

『みかづき』を書くために教育関係の本や記事を読み、さまざまな教育観をもつかたの話をうかがいました。『みかづき』に出てくる直哉（なおや）とい

う男の子は、自分の思いを言葉で伝えられません。言葉は自分を表現するうえで大きな力となるものです。今は格差社会が広がって、家庭の事情で勉強が遅れてしまう子が増えていますが、

周りの大人たちがそういう子どもたちを支えて、なるべく平らかな教育環境を作っていければいいなと思っています。

## 言葉のリズム

執筆中はなるべく原稿を音読して推敲するようにしています。耳で聞く時の心地よさや音感、読点を打つ位置など、とても細かい部分の全てが言葉を作っていきます。例えばゆっくり読んでもらいたい箇所は読点を増やしたり、微妙な調整をしています。文と文との関わり方もリズムの一つです。文章を読む時は目で読むけれど、頭の中で一回、音にしていますよね。その音が気持ちよく響くことがすごく大事なんです。他のかたが書いた小説もよく声に出して読んでいます。デビュー当初から「書いていて気持ちいいか？ 気持ち悪いのか？」という感覚がすごくあって、たぶん自分の中に「リズム欲」みたいなものがあるのだと思います。だから『みかづき』のような長編ほど大変にはなりません。もちろん会話には会



## PROFILE

1968年東京生まれ。1990年『リズム』で講談社児童文学新人賞、1995年『宇宙のみなしご』で野間児童文芸新人賞、1999年『カラフル』で産経児童出版文化賞、2003年『DIVE!!』で小学館児童出版文化賞、2006年『風に舞いあがるビニールシート』で直木賞、2017年『みかづき』で中央公論文芸賞など受賞作多数。エッセイとして2009年『君と一緒に生きよう』、2012年『おいで、一緒に行こう 福島原発20キロ圏内のペットレスキュー』がある。2017年に新刊『出会いなおし』を刊行。

話のリズムがあり、しゃべる人によりテンポも違いますから、登場人物によってリズムを変えています。もしかしたらリズムは、文体と同義なのかもしれません。

## 自分の100%を出す

読むかたあつての小説なので、なるべく伝わりやすく書くことを前提としています。10人読者がいれば10人と違う受け止め方をしますから、私が言ったことを100%読者に受け止めて欲しいとは思いません。キャッチボールにたとえると、受け手のことを考えすぎるとキャッチャーに球を投げる時に手加減してしまうのと同じです。それよりも全力で投げるほうが大事です。自分の100%を出すことが重要です。それから修辭（レトリック）に頼らず、なるべくシンプルに、読点や句点を含めた全部を総動員して臨場感をもって伝えることが大事ですから、あまり飾らないほうがいいかなと思っています。



### 持ちえる言葉の力を増していきたい

執筆している時は波があります。よ  
い波に乗っている時はすぐによい形で  
文章のリズムが出てくることがありま  
すが、常によい波に乗れるわけではな  
いので、何回も書き直して、わかりづ  
らくならないように工夫したり、語尾  
をどう書くかをじっくり考えたりもし  
ます。小説はどの章や場面にも常に語  
るべきことがあって、それらを各場面  
の空気の中に溶かし込んでいくような  
作業が必要です。そうでなければ書く  
意味もないし、書き続けられませぬ。  
自分が持ちえる言葉を使ってできる  
ことをしていくのが仕事なので、なる  
べく自分の中の言葉を豊かにしていこ  
うと考えていますが、「もっとうまい表  
現がきたらな」と思うことはよくあつ  
て、そのつど考えて、なんとか表現を  
ひねり出しながら書いています。もつ  
と自分の持ちえる言葉の力を増やして  
いきたいと思っています。

### 文体を発見する難しさ

本は一冊一冊が異なる宇宙ですか  
ら、常に「何か新しいものを」と考え  
ています。新しさを生み出すのは、や

はり文体です。一冊ごとに今度はどう  
いう文体で構成するかをまず考えます。  
文体が決まらないと書きだせないの  
で、冒頭の一行を書くまで苦労するこ  
とが多いです。途中まで書いて「やつ  
ぱり文体が違うな」と思ったら、全部  
捨てて書き直すこともあります。

小説を書き始めたばかりの若いかた  
がよく、「自分の文体をなかなか発見で  
きない」と悩んだりしますが、大人に  
なっても自分の文体を発見するのはと  
ても難しいことなんです。一つ言える  
のは「文章を書き慣れていくこと」で  
すね。繰り返し書くことで、書けない  
子たちも書けるようになっていきます。  
作文を書けない子に「思ったことを書  
きなさい」と言っても「自分が思っ  
ていることがわからない」と言いますか  
ら、最初のうちは今日一日で何があつ  
たかを順に書かせるといいと思います。  
それに慣れたら、例えば「その時にど  
う思ったか」とちよつとサジェスチョ  
ンを与えるだけで、書くことが膨らん  
でいきます。

### 文章を書くことが全ての基盤になる

私は文字を書くのは昔から好きでし  
たが、文字を書くのが大嫌いな友達も  
いました。そういう子たちに「書きた  
いことを書きましよう」と言っても、  
書きたいことはなかなか見つけれな  
いのですよね。文章を書く・書かないと  
いうのは、足が遅い・速いなどと似た  
ようなもので、個人差があつて当然で  
す。ですから他に得意なことがあつた  
ら、「文章はそこそこでもいいかな」と

思うところもあります。

ただし、塾の先生がたは「今の子ど  
もたちは長い文章が書けない」と皆さ  
んおっしゃっていて、でも長文が書け  
ないと、理解もできないんです。算数  
や英語の問題も、長文が読めないとい  
けません。「文章を書くことが全ての基  
盤になる」と意識して、ある程度文章  
が書けるようにしたほうがいいと思ひ  
ます。それは国語だけの問題ではあり  
ません。算数の文章題などが解けない  
子は、算数がわかっていないのではな  
く、設問の文章がわかっていないこと  
が多いそうです。

### 「物語」の意義

「物語」は虚構の、存在しないもので  
す。現実の世界が「存在するもの」で  
構成されているからこそ、存在しない  
虚構のものは、閉塞された空間に風穴  
を開けるような存在であるように思ひ  
ます。お化けなどの「虚構の存在」が  
人間社会の呪縛を少し緩めてくれるよ  
うに、「人間はリアルではないものに  
心を緩めながら生きています。現実がシ  
ビアであるほど『物語』はその状態を  
少しほぐしてくれるものとして存在す  
る意味があるのかもしれない」と思っ  
ています。そして虚構であるからこそ、  
物語の背景にリアリティや説得力が必  
要で、その物語の土台は盤石でなけれ  
ばなりません。大きなドラマを作りた  
いなら、まず背景を固めることが大事  
です。私は『みかづき』で家族のドラ  
マを書きたかったので、背景をとて  
大事にしました。小説は多かれ少なか

れ人間を書くものなので、そこがいち  
ばん大変でした。

私は「読む」よりも「書く」ほうが  
心地よく感じられるんです。でも言葉  
はほとんど吸収していかないと枯渇し  
てしまうので、なるべくたくさん本を  
読むようにしています。

### 知的好奇心を刺激してくれた 作文の先生

小学校3〜4年生の時の国語の先  
生が、すごく作文に力を入れていたん  
です。その先生は編集者のように赤字  
を入れて何回も書き直しをさせて、一  
本の作文をどんどん磨いて完成させて  
いくかたでした。例えば「運動会に行つ  
たらお母さんの顔が見えました。」とい  
う文を書くと、その時にどう思ったの  
かを聞いて、内容を膨らませてくれる  
んです。「こうすればもっと作文はおも  
しろくなる」とわかるので、その先生  
の集中指導を志願した5人くらいの子  
たちが、算数の時間中も作文を書いて  
いました。ただ教科書を読んで感想文  
を書かせるのではなく「主人公に手紙  
を書きましょう」とか、知的好奇心が  
刺激される授業をしてくれる先生でし  
た。

国語の教科書で印象に残っているも  
のですか？ 私、『太郎おろぎ』の太  
郎に手紙を書きました。その先生のお  
かげで、自治体で作っている文集に入  
選して、文章を書くことにちよつと自  
信がついたんです。その先生がいなかっ  
たら、作家の道に進んでいなかったと  
思います。

# 「社会に開かれた教育課程」と「コミュニティ・スクール」 —教育課程を共有すること—



千葉大学特任教授  
天笠 茂

## 1 「社会に開かれた教育課程」の求め

このたびの学習指導要領が実現を目指すとして掲げた理念が「社会に開かれた教育課程」である。この理念の説明が、学習指導要領の総則の前に設けられた「前文」に、次のようにある。

「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るといふ理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするかを教育課程におい

て明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」

よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るといふ理念を学校と社会が共有する。そのために、学校が編成する教育課程について、身に付けるべき資質・能力、および、学ぶべき学習内容を明らかにし、社会と共有を図っていく必要があるという。

この社会とのつながりを大切にしたい教育課程について、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016（平成28）年12月21日は、次のような要

件をあげている。

①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るといふ目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

その上で、このような「社会に開かれた教育課程」といふ理念を実現するための手立て・方策としてあげたのが、次の三つである。

①「学びの地図」

### 資料1：学習指導要領改訂の全体像 —改訂の理念と三つの方策—

- 「社会に開かれた教育課程」といふ理念
  - ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るといふ目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
  - ②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
  - ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。
- 理念を具体化するための方策
  - ・学習指導要領等の枠組みの見直し（「学びの地図」）
  - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」）
  - ・「カリキュラム・マネジメント」の実現

② 「アクティブ・ラーニング」  
③ 「カリキュラム・マネジメント」

このたびの学習指導要領改訂に  
あたり、最も関心を集めたのが「ア  
クティブ・ラーニング」であつた  
ことは多くの人の認めるところと  
思われる。

ようやく改訂の全体像が整えら  
れたわけであつて、何のための「ア  
クティブ・ラーニング」なのかと  
いえば、それは、「社会に開かれた  
教育課程」という理念を実現する  
ためということになる。

## 2 森と木を ともにとらえる

改めて、理念と方策、すなわち、  
「社会に開かれた教育課程」と「学  
びの地図」、「アクティブ・ラーニ  
ング」、「カリキュラム・マネジメント」  
によつて構築された学習指導要領改  
訂の全体像の掌握が求められている  
ことを確認しておきたい。

すなわち、学校にとつては、こ  
の改訂の全体像を、わが校のグラ  
ンドデザインや全体構想に落とし  
込み、改めて、構築していくこと  
が当面する課題ということになる。

しかし、目下のところ、とりわ  
け小学校の関係者にとつての関心  
は、改訂の理念や全体像はともか

くとして、移行措置期間の外国語  
活動の扱いにあつて、その増加す  
る授業時数の処理に集中している  
ように思われる。改めて、「森」  
を見ることを怠つてはならないこ  
とを強調したい。

もちろん、一本一本の「木」の  
扱いが大切であることも言うま  
でもない。ただ、全体像を見失わな  
いようにすることも心がけたいも  
のである。「森」を見ながら一本  
一本の「木」を考える姿勢を大切  
にしたものである。

## 3 コミュニティ・スク ールと教育課程

さて、新しい学習指導要領の告  
示と時期を重ねるように、日本版  
コミュニティ・スクールをめぐる、  
学校運営協議会の設置や運営の見  
直しに関わる「地方教育行政の組  
織及び運営に関する法律の一部改  
正案」が成立し、2017（平成  
29）年4月より施行された。

この法律改正で、教育委員会は、  
学校運営協議会を置くように努め  
なければならぬとされ、コミュニ  
ティ・スクール設置の努力義務  
化といわれている。

学校運営に関わる基本方針につ  
いて学校運営協議会による承認、

および、教職員の人事について意  
見の表明、などが主な柱とされ、  
人事に関心が集まる傾向があつた。  
その上で、これからのコミュニ  
ティ・スクールは、学校の編成す  
る教育課程の家庭・地域との共有  
という観点から、その承認がウエ  
イトを占めるようになると思われ  
る。学校運営協議会の承認を通し  
て、学校・家庭・地域による教育  
課程の理解と共有を図るといふこ  
とである。それは、このたびの改  
訂の「社会に開かれた教育課程」  
という理念の実現と重なり合う。

コミュニティ・スクールは、現  
在のところ、都道府県によつて普  
及に開きがあり、地域によつては、  
その取組を当面の課題としていな  
い学校もある。

しかし、そのような学校であつて  
も、教育課程について家庭・地域の

### 資料2：コミュニティ・スクールにおけ る教育課程の承認

- 一部改正され、平成29年4月1日に  
施行された地方教育行政の組織運営に  
関する法律、学校運営協議会の関連す  
る事項が規定されている第47条の6  
は、次の通りである。
- 「対象学校の校長は、当該対象学校の  
運営に関して、教育課程の編成その他  
教育委員会規則で定める事項について  
基本的な方針を作成し、当該対象学校の  
学校運営協議会の承認を得なければ  
ならない。」

### 資料3：コミュニティ・スクールの設置

指定校の割合（文部科学省の調査 平成29年4月1日現在）(3,600校)

100	山口	17.6	新潟	11.0	奈良	4.5	福島	1.7	香川
44.8	京都	17.0	滋賀	10.9	栃木	4.1	愛媛	1.6	千葉
30.8	大分	15.8	福岡	9.5	北海道	3.6	兵庫	1.5	富山
28.8	岐阜	14.8	秋田	8.9	山形	3.5	岩手	1.0	大阪
28.0	岡山	14.1	高知	8.6	埼玉	3.4	和歌山	0.8	茨城
25.2	宮崎	13.1	三重	8.1	静岡	3.1	山梨	0.7	青森
21.7	佐賀	12.9	熊本	6.6	沖縄	3.0	群馬	0.0	福井
21.3	鳥取	12.8	神奈川	6.1	石川	2.6	宮城		
20.1	島根	12.1	長野	5.9	徳島	1.8	広島		
18.6	東京	11.6	鹿児島	5.7	愛知	1.8	長崎		

理解を必要としているはずである。  
学校の教育活動は、家庭・地域の理  
解と支えがあつて成り立つものであ  
り、それは、コミュニティ・スクー  
ルであるか否かにかかわらず、どの  
学校にも求められている。  
その意味で、学校にとつて、教  
育課程について丁寧に説明する力  
を蓄積することが、「社会に開かれ  
た教育課程」への道を開き、コミュ  
ニティ・スクールへの備えといふ  
ことになる。

# 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて



渋谷区立臨川小学校 校長  
土屋 康子

けで育まれるものではなく、家庭教育を基盤に、地域社会とのつながりや信頼できる大人とのさまざまな関わり、さまざまな経験を重ねていく中で育まれる。

本校は、併設幼稚園とともに、平成27・28年度東京都教育委員会「人権尊重教育推進園・校」、平成27年度「オリンピック・パラリンピック教育推進園・校」平成26・27年度渋谷区教育委員会「研究指定園・校」として、人権教育を充実させる研究を進めてきた。

人権教育およびオリンピック・パラリンピック教育を充実させるには、多面的な活動、計画的な学習への転換が必要である。そのために、教科・領域の横断的な指導は、必須であり、焦点を当てて取り組む教科・領域に、他の教科・領域との関連を明確にしてカリキュラムをデザインし、授業づくりをすることが重要である。

そこで、人権教育、オリンピック・パラリンピック教育のゲストティーチャーとして、地域・外部の方に、1年間で144名にお

## 本校の特色

- ・ 次の4点があげられる。
  - ・ 併設幼稚園と、同一歩調で教育活動を進めている
  - ・ 特別支援（知的障がい）学級が設置されている
  - ・ 近隣の児童養護施設と140年の歴史を共有し、入所児の80%余りが本校を選択している
  - ・ 外国籍および外国にルーツのある子どもが、全体の約17.5%在籍している
- 本校には、さまざまな家庭環境、生活経験、成育歴のある子どもたちが、共に生活している。だから

こそ、多様性を尊重する心の育成、および、人との関わりを大事にし、互いを認め合う心の育成が不可欠である。

## 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、学校と地域が連携・協働し「地域の子どもは地域で育てる」ことができるようにするために、各学校が丁寧に教育活動やその意図を保護者や地域の方々に説明し、共通理解が図れるようにしていく必要がある。そのためには、実際に学習に取り組んでい

る子ども姿に触れていただくことも大切である。文字や話だけでは、情報発信者と受信者で違いが生じる。具体的な子ども姿や様子を基にして、課題や取り組み、関わり方などについて共通理解を図ることが重要である。

## 連携の必要性と現実

グローバル化やAIの急激な進歩など、これからの社会を生きる子どもたちには、主体的に学び、課題に取り組むとともに、他者と協働しながら未来を切り拓く力が求められている。このような子どもたちの「生きる力」は、学校だ

越しいただいた。ほ  
 ぼ、1日半に1人の  
 方と、初めての出会  
 いがあり、新しい関  
 わりが生まれた。校  
 外に出かけ、地域・  
 外部の方々に関わ  
 りをもつ活動を1  
 年間で82回重ねて  
 きた。多くの出会い  
 や気づき、温かな心  
 の交流によって、子  
 どもたちの心が豊  
 かに育てられてい  
 ると、捉えている。

### 今後に向けて

地域との連携に留  
 まらず、地域の人々  
 と目標やビジョン  
 を共有して「地域  
 とともにある学校」  
 への転換を図る。そ  
 して、地域と一体と  
 なって子どもたち  
 に「未来を切り拓く  
 力」を育む。

## ●具体的な取り組み『近隣の広尾商店街との連携～生活科・総合的な学習の時間・総合単元学習～』

<p>第1学年 「つなげよう手と手 とどけよう心」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域、「広尾商店街」にある高齢者施設の方と繰り返し関わる活動を通して、高齢者に親しみや愛着の気持ちをもち、思いやりの心をもって接する。</li> <li>地域の高齢者との関わりを深めるとともに、1年間の学校生活を振り返る中で、自分自身の成長に気づき、伝える。</li> <li>自分の成長には、多くの人たちとの関わりや支えがあったことに気づき、感謝の気持ちをもつとともに、進級への期待や意欲を高める。</li> </ul>
<p>第2学年 「ときどき わくわく まちたんけん」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域「広尾商店街」の人々やさまざまな場所に関心をもち、ルールやマナーを守り、安全に気をつけて、見たり調べたりしようとする。</li> <li>相手や場に応じた適切な行動を考えながら町探検をし、それを振り返って素直に表現する。</li> <li>地域にはさまざまな場所があり、多様な人々が働いたり生活したりしていることを知る。多くの方によって、自分たちの生活が支えられていることに気づく。</li> </ul>
<p>第3学年 「人にやさしい町 『広尾』」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「広尾商店街」について調べたり表現したりする活動を通して、自分たちの住んでいる町には「みんなが暮らしやすくする工夫」があることを実感し、視覚障がいについて考える。</li> <li>障がい者スポーツについて課題を追究する活動を通して、パラリンピックへの興味・関心を高め、世界で活躍する視覚障がいのある方々の気持ちを想像する。</li> <li>障がいのある方と共に生きるために自分たちにできることを考え、実践しようとする。</li> </ul>
<p>第4学年 「美しい未来を」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域「広尾商店街」や外国のごみの処理、再生の仕方を調べたり表現したりする活動を通して、日本や他国のごみに対する考え方を知り、ごみを出さない社会にするために自分ができることを考える。</li> <li>東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、ごみのない美しい環境を作ろうとする。</li> </ul>
<p>第5学年 「私たちの 東京2020」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における課題を追究する学習（視覚・聴覚障がい者の立場に立った町の工夫調査）や障がい者との交流を通して、その人々の思いに触れ、世の中にある偏見や差別について考えるとともに障がいについての正しい理解を深める。</li> <li>障がい者スポーツについて課題を追究する活動を通して、パラリンピックへの興味・関心を高め、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、地域に生きる自分たちにできることを考える。</li> </ul>
<p>第6学年 「未来を拓こう ～Discover the future～」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来の日本を支えるさまざまな仕事や東京オリンピック・パラリンピックのためにできることについて自ら課題を設定し、「広尾商店街」での職場体験などの活動を通して、働く意義や働く人の思いを知り、自分の将来について考える。</li> <li>さまざまな職業や日本の未来づくりに携わってきた人たち、地域に住む外国人の方の思いを知り、よりよい日本「おもてなしの国」の未来について考え、自分とわが国に誇りをもって生きていこうとする。</li> </ul>
<p>特別支援学級 「世界の グルメ探検」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このほり作りから、魚に関心をもち、友達と調べたいことの計画を立てるとともに、「魚を買う、観察する、解剖する、食べる」という学び方の手順を理解する。</li> <li>第1小単元で興味をもった「いか・たこ」を世界の人々はどのように調理し食べているのか、地域に住む外国の人々にインタビューなどをして調べる。「広尾商店街」にはさまざまな国の人が暮らしていることに気づき、世界には、日本と違う食文化があることを知る。</li> </ul>

を合い言葉に小中一貫教育（保幼小中一貫教育）に取り組んできました。小・中の教育課程上の区分は「6・3」制であって、「4・3・2」制や「5・2・2」制は実施していません。必要であればこれから創っていけばよいと考えています。

日課時程については、小学部の業間を利用することで、授業時間の違い（小学部45分・中学部50分）を解消し、小・中学部の1・3・5時間目の始業時刻を合わせています。そうすることで、小・中一斉の取り組み（朝読書・昼清掃・合同授業・その他の活動など）、中学部職員による小学部での授業（本年度は外国語活動・音楽・体育）を可能にしています。

#### ④ 学校行事

入学式や始業式等は小・中合同で、運動会・文化祭・避難訓練等は幼・小・中合同で行っています。卒業式に関しては、今のところ、小・中別々に実施した方がよいということで学校・保護者の意見は一致しています。



●入学式の風景（手前は小学1年生、奥は中学1年生）

#### ⑤ PTA 活動・地域連携

保護者の学校教育に対する関心は高く、協力的です。PTA 活動も盛んで、特にPTA バレーは県大会優勝レベルです。また、本年度、「富山学園PTA」設立総会を開催し、昨年度まで幼・小PTAと中学校PTAに分かれていた組織を統合しました。

本学園では「富山学」（「地域を学び、地域に学び、地域が学ぶ」郷土学習）に取り組んでいます。積極的に校外に飛び出し、地域の自然・歴史・文化に触れることはもちろん、地域の方々に講師や受講者として学園に来ていただいています。将来的には、富山学園の活動や子どもたちの様子に地域が影響を受け、街づくりなどが活発になっていくことを目指しています。

#### ⑥ 校内研修

学校教育目標達成に向けた『学校づくり』と研究

主題追究に向けた『授業づくり』の2本立てで取り組んでいます。研究主題は、「思考力・表現力を身につけた児童・生徒の育成～9年間の発達段階に応じた学び合い活動を通して～」としました。

『学校づくり』に関しては、全職員が3つのプロジェクトチーム（「確かな学力P」・「豊かな心P」・「逞しい心P」）のいずれかに属し（校務分掌に位置づけ）、学校行事、児童・生徒会活動、「富山学」の推進、地域連携などについて昨年度の反省をもとに話し合いを進めています。

『授業づくり』に関しては、交流授業（中学部職員による小学部での授業）や相互授業参観（年間1人最低1回の授業公開で小・中の授業を見合う）を実施し、研究主題の追究を通して、9年間・15年間を見通した教育課程の編成に役立てようとしています。

### 今後の展望

小学部職員からは「中学生が同じ校舎内にいることで、子どもたちに数年後の姿を見せてあげることができる。」、中学部職員からは「小学部の先生方のきめ細かい指導方法に感心させられる。」などの意見が聞かれます。また、「もっと、児童・生徒会の活動を小・中一緒にさせたいけれど、活動する時間が…。昼休みばかりつぶしてしまうのも…。」「中学校に昼清掃は適さない。」などの意見も聞かれます。

富山学園はスタートしたばかりです。今後も本学園らしい（小中一貫校・保幼小中一貫校のメリットを生かした）活動にトライしていきたいと考えています。さまざまな課題は出てくると思いますが、保護者や地域の方々、さらには教育委員会などにも関わっていただき、話し合い、解決していきたいと考えています。小中一貫教育に関しては、現在、昨年度の反省から見えた課題を整理し、話し合い、その解決に取り組んでいるところです。さらに、本年度の取り組みを通じて得られた反省を来年度の計画につなげ、小中一貫校3年目となる平成30年度には、9年間を見通した教育課程を編成したいと考えています。同様に、15年間を見通した教育課程（幼・保・小・中）の編成に関しても積極的に取り組んでいきたいと考えています。新しいことに取り組むって、わくわくします。



## 0歳から15歳までの保・幼・小・中一貫校「富山学園」

江戸時代末期に登場した戯作者・滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」の舞台である山・富山（とみさん）が中央にそびえる千葉県南房総市の富山（とみやま）地区に、昨年度（平成28年度）、小中一貫校が、そして、本年度、隣に子ども園（保育所・幼稚園）が完成し、0歳から15歳までの子どもたちが同一敷地内で活動する全国的に見てもあまり例のない施設「富山学園（とみやまがくえん）」が開園しました。

「まずは同じ屋根の下で一緒に暮らしてみよう！」を合い言葉に、スタートしたばかりの「富山学園」の様子を紹介します。

富山学園 千葉県南房総市立富山小学校・中学校

校長 高柳 聡（たかやなぎ さとし）



### 「富山学園」開園まで

少子化の影響から学校再編を進める南房総市は、平成24年度に富山中学校区にあった2つの小学校を統合し、富山小学校としました。将来的に、生徒数が100名前後で各学年単学級となる富山中学校を近隣の中学校と統合するという意見もありましたが、富山小学校と富山中学校を小中一貫校とすることになりました。

平成28年度、まずは、施設の完成した富山小学校・中学校（小中一貫校）を開校し、本年度、隣に完成した富山子ども園（富山保育所・富山幼稚園）を加え、同一敷地内に保・幼・小・中が一緒に生活する「富山学園」（保幼小中一貫校）となりました。



●校門からの風景

### ◆職員

- 学園長1（小・中学校長が兼ねる） ●子ども園長1
- 小・中学校長1 ●小・中学校教頭2（小・中各1）
- 子ども園職員13（保育所10・幼稚園3）
- 小・中学校職員35（小学部21・中学部14）

※「富山学園」では、小・中学校を「小・中学部」、中学1年生を「7年生」と呼んでいます。

小・中学部職員には兼務発令されています。

### 「富山学園」の取り組み

#### ①学校教育目標（保・幼・小・中共通）

「豊かで逞しい心を持った子どもの育成 ～人間性を育む＝『意志』・『情操』を育てる～」

#### ②重点目標（小・中共通）

「5つのABC」～（A）あたりまえのことを（B）バカみたいに（C）ちゃんとやる～  
『挨拶する』・『正装する』・『勉強する』・『運動する』・『掃除する』

#### ③教育課程（小・中学部）

「無理せず、まずは、小・中が一緒に暮らしてみよう。一緒にやった方が良いことはやってみよう。その中から、9年間、15年間（本年度より「子ども園」を加え）を見通した教育課程を創っていこう。」  
「トライ&エラー。失敗を恐れず、やってみよう。」



### 「富山学園」の概要

◆園児・児童・生徒数 ★…2学級、その他は単学級

	◆保育所	◆幼稚園	◆小学部	◆中学部
学年等	0歳児(3)	4歳児(16)	1年生(38)	7年生(45)★
	1歳児(6)	5歳児(15)	2年生(38)	8年生(32)
	2歳児(7)		3年生(38)	9年生(30)
	3歳児(13)		4年生(42)★	
			5年生(44)★	
			6年生(42)★	
合計	29名	31名	242名	107名



## 宮城県気仙沼市立唐桑小学校

### 海・森と共に生きる—— 「ふるさと唐桑を愛する子ども」 の育成を目指して

宮城県気仙沼市立唐桑小学校（明治6年創立、児童数72名、小松英紀校長）では「海と生きる」海洋教育や、地域と連携した学びなどの推進を図っています。平成24年からNPO法人「森は海の恋人」主催の植樹祭に参加し、昨年度はESDの取組が評価され、第7回ESD大賞で「ユネスコスクール最優秀賞」を受賞しました。専門家や地域住民の協力も得て行う牡蠣養殖体験学習などを通し、子どもたちが豊かな心を育み、海・山・人から学びながら故郷の素晴らしさを知り、ふるさとの自然を守り育てる取組をご紹介します。

#### 豊かな海・山・人を育む

唐桑小学校（以下「唐桑小」）は、平成24年からNPO法人「森は海の恋人」主催の植樹祭に参加しています。東日本大震災により、唐桑小で活用していた体験学習用の牡蠣筏は失われましたが、地元唐桑や広島の牡蠣生産者の協力を得て復活し、地元NPO法人「森は海の恋人」が主催する植樹祭への参加を始めました。唐桑小では、子どもたちが植樹祭に参加する以前から「森は海の恋人」の理念について講話を聞く機会を作り、牡蠣の成長には餌となるプランクトンが必要なことや、プラン

クトンが豊富な海にするには広葉樹を湛えた森が必要なことを学んできました。そこで、これまで子どもたちが理解したことを次の行動へ結び付けるために5年生の学習に植樹祭活動を取り入れ、6年生と合同で参加。以後、継続的に実施できるようにしました。

#### 故郷を愛する

同小学校の主幹教諭、佐藤祐美子先生は「児童とともに、私たち教員も植樹祭への参加を通して、海に関わる人たちの思いや、その思いを支えようと協力する人たちの姿などから多くのことを学んでいます。それ



● (p.10) 植樹祭は今年で 29 回目。開会式後、一関市内の矢越山で植樹が行われました。開催当日は小雨が降るなか、全国から約 1,500 人が参加。

### 体験学習活動

1・2年生 「海と親しむ」	・砂浜での海藻拾いとそれを使った海藻押し葉作り ・鮭の飼育活動と自分たちで育てた鮭の放流活動
3年生 「ワカメを知ろう」	・唐桑で養殖されているワカメについての調べ学習
4年生 「カキの秘密を探ろう」	・カキの養殖体験（種カキをロープに挟む作業） ・カキの生態についての調べ学習 ・カキの解剖・カキ筏の模型作り
5年生 「おいしいカキを育てよう」	・カキの養殖体験（耳つり作業） ・カキが成長する条件となるプランクトンの学習 ・「森は海の恋人植樹祭」参加
6年生 「唐桑の素晴らしさを伝えよう」	・カキの養殖体験（カキ砕き作業・温湯処理作業・カキむき作業） ・地元での祭りでの、カキ販売体験 ・定置網起こし体験 ・「森は海の恋人植樹祭」参加

● (左上)「森に木を植えることは、人の心に木を植えることと同じ」と植樹祭主催者で「森は海の恋人」代表の島山重篤さん。  
● (中央) 森の中になぜか大漁旗が。牡蠣の漁場は川が海に注ぐ汽水域に形成されているそうです。川が運ぶ森の養分が、牡蠣の餌となる植物プランクトンを育てているからです。現在の6年生は2度目の植樹祭参加。植樹祭参加後に「海を汚さないように」と環境への配慮を意識するようになった児童もいます。● (中央右)「雨が降ったけど、楽しかったです」と唐桑小5年生の梶原君と及川君。● (左下) 植樹祭参加証。  
「今後は児童が植樹活動について学びを深め、牡蠣を育てるために大切なことを自分の言葉でまとめ、おいしい唐桑の牡蠣ができるまでに人間が努力すべきことを発信できるようにしていきたいです。また、人との関わりを通じて感じた思いを、児童自らが多くの人たちに伝えられるようにしていきたいです。そして何よりも、この植樹活動を始めたのは唐桑の人々であることに誇りをもたせたいです」と唐桑小の佐藤祐美子先生。

らをどのように児童の心につなげていけるか、森と海とのつながりを考えながら授業を進めています。」とおっしゃいます。地域だけではなく、全国から集まった多くの方々とも

に行われた植樹祭の意義に気づき、故郷の森・川・海の秘密を知り、その素晴らしさを多くの人々と守り分かち合う取組を続けながら、子どもたちは学びを深めていきます。

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

**岩** 槻城を築城した太田道灌から校名をいただいている太田小学校には、「4つの宝」があります。

- ①あいさつ上手、
- ②聞き上手、
- ③話し上手、
- ④思いやり上手

の4つです。

「あいさつ上手」は、毎週木曜日に代表委員が2か所の校門に立ち、登校してくる児童とあいさつを交わし、元気で気持ちのよいあいさつができた児童を「あいさつ名人」として記録して、昼の放送で名前を読み上げています。学校以外の場面でもあいさつができるよう、保護者や地域の方にも声かけをお願いしています。

「聞き上手」と「話し上手」は、校内研修で取り組んでいる「基礎学力向上」の手立ての一つとして、特に力を入れています。

本校の授業の流れ《もくもくタイム》→《あれこれタイム》→《なるほどタイム》→《もく

もくタイム》の中で、特に《あれこれタイム》《なるほどタイム》は、ペアやグループの中で、自分の考えを伝え合い、それを全体で共有します。いかに「聞き上手」「話し上手」であるかが大きなカギとなります。

思いやり上手は心のありようです。相手のことを思いやるためには、まず自分が価値ある人であることを認識すること。そこから相手への気づかいや思いやりが生まれてきます。

今年は、開校50周年記念の大きな節目の年。4つの宝を輝かせ、子どもたちがよりよく成長できるよう職員一同同じ方向を向いて職務にまい進します。



## 埼玉

「4つの宝」を身につける  
開校50周年を生かして

埼玉県さいたま市立太田小学校 校長 笠原 実

## 南から



**羽** 村市では、文化庁の伝統文化親子教室事業を受けて、小学校高学年から、中学2年生までを対象にした「羽村子ども茶道教室」を開催しています。今年で3回目を迎えました。

毎年、年10回のおけいこを通して子ども一人ひとりが、薄茶点前の習得と茶人としての礼法を学び、最後に、子どもフェスティバルにおいて、家族、友人を招き、広く一般市民も参加し、子ども一人ひとりがお点前を披露します。

茶道の根幹は、「おもてなし」と「おもいやり」です。例をあげますと、一服のお茶をいただく時には3つのあいさつがあります。お茶を出されたら上座の人に「お相伴させていただきます」、下座の人に「お先にいただきます」、さらにお茶をたてた亭主に「お点前頂戴いたします」とあいさつをします。亭主は、一服のお茶を差し上げるために、火加減、湯加減、お茶の量などに最深の心配りをします。このように、お茶席では、常に相手への「おもいやり」を大切にします。そんな人と人との心が融和して、このひと時、出会いを大切に思う気持ちが育ま

れます。茶室の床に飾られた茶掛けの言葉や楚々とした茶花の彩、季節を先取りしたような美しいお菓子もまたさらに人の心を和ませてくれます。

「一期一会」には、こうした無言の中に関わされる「おもいやり」や「おもてなし」を大切に、「今この時」を共に過ごすことのできる喜びを味わいましょうという意味が込められています。

子どもたちも、初めは戸惑いや驚きを隠せない様子ですが、おけいこを重ねることにお点前が身につき、喜々として人前でお点前を披露することができます。

400年という歴史と共に生きてきた茶道の懐に、子どもたちを誘うことができる喜びを感じながら今日も励んでいます。



## 東京

いっぴくのお茶が育むおもいやり

東京都羽村市羽村子ども茶道教室 印南 圭子

## 新潟

### 地域と共にある学校に向けて

新潟県糸魚川市立南能生小学校 校長 栞原 陽一

**南**能生小学校は、全校児童 32 名の小規模校です。このよさを生かし、異学年集団での学び合いや全校縦割り班での活動など、集団生活に必要な、だれとでも協力する態度の育成を図っています。学校に寄せる地域の思いや期待は大きく、特に、どのような場面でも伸び伸びと、自分の思いや考え、自分のよさを表現できる柔軟性やたくましさを育くんでほしいという強い願いがあります。

当校の強みは、家庭、地域と学校が太いパイプで結ばれ、密接な連携が継続的に営まれていることです。特に、学校が所在する糸魚川市上南地区は公民館活動が活発で、児童は放課後に週 2 回の楽習（学習）会へ通っています。学校と公民館の共催で行う活動の一例を、以下に紹介します。

#### ① 上南ふれ愛運動会（5月）

午前は小学校の運動会、午後は公民館主催の地域運動会を行います。1 日を通じて、児童の活躍を見守りながら、地域総出の運動会となります。

#### ② 川遊び（8月）

以前は児童から親しまれる存在であった川の機能を子どもたちに伝えたいという思いから、地域を流れる川を活動場所として、遊泳、魚捕り、いかだ体験などの川に親しむ活動を行っています。PTA と地域の支援により安全確保に万

全を期して、昔の遊びの共有体験を実現しています。

#### ③ 南小ファイヤー（2月）

冬の積雪期、グラウンドを会場にして、雪面に一面のキャンドルが置かれ、幻想的な光景が創出されます。学校と地域が感動を共有する、特別な取り組みになっています。



会を中心に体育会、文化祭など、さまざまな学校行事を生徒たち自身の手で成功に導き、学校生活の充実や改善向上を図る活動に自主的に取り組むことができるようになってきました。各部活動においても素晴らしいパフォーマンスを演出し良い結果が表れ、生徒たちが相乗効果を発揮することで、活気のある学校へと進んでいます。

これからの本校の取り組みとしては、生徒たちの問題解決能力、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を培うために、授業の中に生徒一人ひとりの学びの成長（基礎的概念→つながり→応用）を測るルーブリックを活用した客観的で計量的な評価方法を取り入れ、さらなる生徒の成長を図って参ります。



**今**年で創立 70 年目を迎える本校は、市の施策＜「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもを育てる飯塚市学校教育プラン 29＞に基づき、「学力の向上」「豊かな人間性の育成」「体力の向上」「人権教育の推進」「特別支援教育の充実」「小中一貫教育の推進」等々の取り組みを推進しています。

中でも「学力の向上」については、一斉授業からの脱却を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の授業について全教員で研修を重ね、東京大学 CoREF が提唱する「考える力、工夫する力を育てる授業づくりー知識構成型ジグソー法による協調学習ー」の研究・実践を進めています。一昨年秋には「協調学習の手法を取り入れた考え議論する道徳の研究発表会」を開催しました。本年度 10 月 27 日には、東京大学 CoREF 主催による「新しい学びプロジェクト全国協議会（飯塚市開催）」で本校は協調学習による授業公開・研究協議会を行い、これまでの研究の成果を発表します。また、11 月 10 日には、福岡県教育委員会主催による県の重点課題研究指定・委嘱校として「主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくり」をテーマとして中間報告会を行います。

このような「学力の向上」を目指す授業改善の取り組みから、生徒一人ひとりの学力向上はもちろん、集団としての協働意識が高まり、生徒

## 福岡

### 高い志をもち、未来を切り開く生徒の育成に向けて

福岡県飯塚市立飯塚第一中学校 校長 山下 弘喜

# 「染井吉野」の謎解き 連載第2回

教育研究所主任研究員 畑中喜秋  
野外植物研究会会員

花見の主役は、明治以前はヤマザクラやサトザクラであったが、明治以後は「染井吉野」に変わった。この魅力的な染井吉野について、まだ解決されていない点がいくつかある。それは染井吉野の起源、両親の遺伝的な優越性、花色や形態、花期の不統一等である。

まず、染井吉野の起源であるが、江戸末期に江戸染井村（現東京都豊島区）の植木屋が作出したという説。伊豆大島原産地説。小泉源一博士が唱えた済州島原産地説。そして、現在有力な説として伊豆半島でオオシマザクラとエドヒガンが自然交雑して発生したという説があるが、どれもまだ仮説の段階である。

次に、ソメイヨシノの両親であるが、戦後国立遺伝学研究所の竹中要が染井吉野の両親は、エドヒガンとオオシマザクラの種間雑種であることを明らかにした。両親の遺伝的な優越性を調べる方法は、伝統的な植物の形態・形質を観察する方法とDNA解析がある。私は染井吉野とオオシマザクラ、エドヒガン三者の形態・形質を分析し、両親の遺伝的な優越性を分析した。結果は次の通りであった。

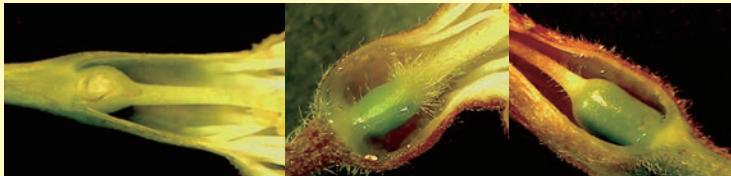


写真1 左からオオシマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノのがく筒と花柱

吉野に与える両親の遺伝的影響の割合は、エドヒガンが6対4程度に優越していると考えられる。

DNA解析については、多摩森林科学園発刊の「サクラ保存林ガイド、2014年」に詳しい。染井吉野に与える遺伝的影響は、エドヒガンが46%、オオシマザクラが37%、ヤマザクラが8%、不明な遺伝子が9%とある。DNA解析も染井吉野に与える遺伝的影響は、エドヒガ

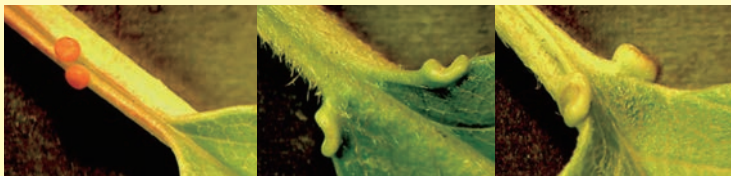


写真2 左からオオシマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノの葉に付く蜜腺

ンが優越していることを示している。ヤマザクラや不明な遺伝子は、いつ頃どのようにして入ったのだろうか。考えられることは、「両親の子としての染井吉野（第一世代）がヤマザクラと交雑し、第二世代の染井吉野が生み出された際に入ったと考えられる。」

竹中要は伊豆半島の船原峠で、エドヒガンとオオシマザクラが自然状態で交雑した種間雑種を発見し「船原吉野」と名付けた。また、エドヒガンとオオシマザクラを人工交配して染井吉野に近い兄弟姉妹である「天城吉野」や「早生吉野」など数種を作出した。さらに、染井吉野が親であるオオシマザクラと交雑（戻し交雑）して、「染井匂」や「昭和桜」等の第二世代が生まれているのを発見した。

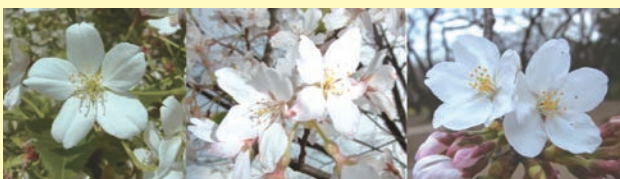


写真3 左からオオシマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノの花

## 高大接続改革について ～新テストなど大学入試改革を中心に～（第3回）



前 独立行政法人  
大学入試センター理事  
副所長 伯井 美徳  
(元 文部科学省大臣官房審議官  
高大接続・初等中等教育局担当)

大学入試における英語4技能評価

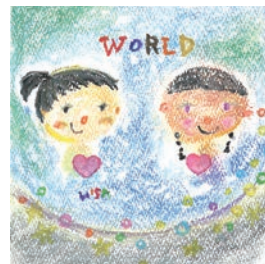
を具体的にどう行おうとしているのか？

前回のコラムでは、大学入試改革の内容として、共通テストにおける記述式の導入について触れた。今回は、入試改革のもう一つの目玉である英語4技能評価について説明したい。

学習指導要領においては、従前より、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」をバランスよく育成することを旨とした指導を行うこととされている。しかし、生徒の学習の実態には、課題が多く、特に「話す」「書く」という発信能力が弱い。2020年に小学校から順次導入される新学習指導要領では、英語教育の抜本的な強化を図ることとしている。例えば、小学校段階では、中学年から外国語活動を行うとともに、高学年は年間70単位の教科型の英語を導入しコミュニケーション能力の基礎を養うこととしている。中学校段階では、2019年の全国学力調査に英語4技能調査を実施することとしている。高校段階でも、「英語コミュニケーション」「論理・表現」と科目の再構成が行われる予定だ。小中高を通じて、英語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる資質・能力を育成するため、国際的な基準であるCEFRなどを参考に、小中高で一貫した「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の4技能5領域別の目標設定がなされる。

このように英語教育の強化が図られつつある中で、入試の現状を見てみると、大学入試で4技能をバランスよく評価している例は、まだまだ少なく、学校において行われるべき英語コミュニケーション能力の育成指導と、いわゆる「受験英語」がかい離している状態にある。

できるだけ多くの大学が英語4技能評価型の入試を取り入れることにより、高校における教育指導と入試が連動し、高大が接続した英語教育の改善が期待されるのである。



では、具体的にどのように英語4技能評価を行うのか。スピーキング、ライティングを、現行センター試験のような大規模・共通型一斉試験で行うことは、日程的に、また、技術的、体制的に実施困難と考える。そこで、2020年新テストの枠組みにおいては、既に相当程度、多くの高校生が受検し、一定の評価が定着している民間の資格・検定試験を活用することとされている。

具体的な方法としては、

- ・試験内容・実施体制などが入試活用するうえで必要な水準を満たしているものとして、大学入試センターの要件をクリアした民間英語試験に関し、受検者の試験結果をセンターが一元的に集約し、受験する大学からの請求に基づきセンターから当該受験生の民間試験結果を大学側に提供する。
- ・このことにより、大学受験生の出願手続きの簡素化や大学側の業務負担の軽減を図り、入試における4技能評価を促進する。
- ・当面は、センターの筆記試験・リスニング試験は残し、希望する大学は出願資格、英試験免除、得点加算などの方法で認定試験の結果を活用する。

といったことが7月に文科省から公表された新テスト実施方針案に示された。

今後、英語民間試験成績一元管理・提供システムの構築に向けて大学入試センターにおいてより具体的な検討・準備が進められる。その中で、関係団体との協議により、成績表示の方法、受検期間・回数、受検生の費用負担、結果活用のモデル提示など、より具体的な事項が示されることとなる。このシステムの構築・円滑な導入により、英語4技能評価ができるだけ多くの大学入試で導入されるようになることが強く期待される。

イラスト ひらた ひさこ <https://www.hisako-hirata.com>

第15回

## 地球となかよしメッセージ

作品発表の  
お知らせ

「第15回 地球となかよしメッセージ」入賞作品は  
『Educo』2018年冬号（2018年2月中旬発行予定）  
で発表します！

昨年度の入賞作品は、教育出版ホームページでごらんいただけます。

「地球となかよし」という言葉から感じたり、  
考えたりしたことを、  
写真やイラストにメッセージをつけて表現する  
「地球となかよしメッセージ」。  
今年度も、すばらしい作品が集まりました。



「Educo」バックナンバーについてはお問い合わせください。

# 外国語を学ぶことは、 世界が広がるということ

## イギリス公共放送の放送通訳に

東京の翻訳会社で長く翻訳をしていたのですが、「このままでいいのかな」と思い始めた時に放送通訳の募集広告を見つけました。「約1年、勤務可能な放送通訳者を募集。場所は東京がロンドン」と書いてあるだけでしたが、とりあえず電話をしたのが放送通訳になったきっかけです。問い合わせたところ、勤務先はBBC（イギリスの国営放送）だと聞いてびっくり。試験を受けたらすぐ採用が決まってイギリスへ行くことになり、不安でいっぱいでしたが「行くべきだ」と何かに後押しされているような感じでした。

公共放送局なのに当時は二ヶ国語通訳対応のための十分な設備がなかったため、各通訳者が自分で放送をカセットテープレコーダーに録音し、局内の通訳者用の部屋へ走って戻って内容を確認していました。生放送のニュースを聞きながらいきなり通訳すると、事前に1度録音内容を聞いてから通訳するのでは全く質が違います。格闘しながら学ぶ毎日でしたが、今は「とても楽しく英語が身についたかな。」と思っております。



## 学びあつてスキルを高める

生放送ですから放送が終わるといつも疲れ果てていました。早めに調整すれば2週間単位で休暇を取ることもできましたし、体調が悪い時は臨時交代要員に手助けしてもらえなど、労働環境が整っていました。

同時通訳のスキルについてはみんな「自分で磨いていくしかない」と覚悟しているところがあり、BBCでもお互いいいところを学び合つてスキルを高めていきました。

## オバマ大統領広島スピーチの同時通訳

広島でのオバマ大統領の通訳をさせていただいたのは本当に名譽なことでした。日本人にとつて特に意味があり、通訳の後で、歴史的なすばらしいスピーチだったことを改めて強く感じました。でも、スピーチの内容について事前に情報を得られなかったうえ、練りに練つた原稿での心のこもつたスピーチでしたから、本当に難しかったです。通訳を終えてから数人の同業者と話をしましたが、みんな「難しかった」と言い、悔いが残りました。でも、あの場に関われただけでもありがたいと思っております。

一回でもお会いした方は心の中で応援したくなります。たとえば、以前に通訳をさせていただいたマクロン氏がフランスの大統領になったのが嬉しくて、通訳を終えた時に、「ありがとう」のウインクをしてくださった時は、通訳中の緊張が全部消えた気がしました。

## まず母国語をしっかり学ぼう

どんなに外国語学習をしても、母国語以上に使えるようにはなりません。母国語力が弱いと、他の言語もできるようにならないので

す。日本で育つて何かを学ぶ時は日本語が全ての基礎・基本ですから、まず日本語力を上げることが鍵なのです。絶対に日本語力を手放してはいけないと思います。英語はあくまでも「外国人」として運用できるようにするのが一番良いと思います。人とのコミュニケーションができるようになれば仕事はできるので、それで十分です。差し迫つた状況ではないのなら、無理に英語を学ぶ必要はありません。まずしっかり国語の勉強をさせるほうがずっと力になります。

英語学習は地味にこつこつ学ぶ活動であるにも関わらず、ちよつとおしゃれっぽいイメージがあるようですね。小さい時から塾に行つて、英語の成績が良い子も結構いますが、あまり本を読んないでないので肝心の日本語力が足りない子がとても多いのです。何よりもまず「母語」、思考する時に使う言語がしっかりしていることが大前提です。そうでなければ外国語で何かを伝えるのは無理です。そして読むことについては、外国文化になじむためにも良い翻訳書としてすでに評価が確定されている子ども向けの本も含めた副読本なども入れるのもよいかもしれません。外国語を学ぶことはコミュニケーションの手段が一つ増える、つまり世界が広がるということですから。学ぶ楽しさはそこに尽きるのではと思えます。

袖川裕美（でかかわ ひろみ）同時通訳者、東京外国語大学フランス語学科卒業、ブリティッシュ・ユニヴァーシティ（ナタ）修士課程修了。1994年から4年間、BBCワールドサービス（ロンドン）で放送通訳を務める。帰国後は、NHK・BS、BBCワールドニュース（東京）、CNN、日経CNBCを中心に放送通訳や会議通訳を行う。2015年から愛知県立大学外国語学部英米学科准教授を務める。著書に「同時通訳はやめられない」（平凡社）

## Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆大村智先生の「スマホばかり見ている、サイエンスは生まれません。いつも仲間と『もつと自然に触れながら子どもを育てよう』と話しています」はいつの時代でも子育ての基本だと思います。先生の非凡さが表れているインタビューでした。（新潟県 小黒正範）
- ◆「先生の資格とは、自分自身が進歩していることである」。大村先生のご母堂様の一言は、常に教師の座右にあるべき言葉・信条だと思います。大変有意義な記事でした。（千葉県 元教員）
- ◆「知っておきたい教育NOW①②のカリキュラムマネジメント」に関する記述は、とてもわかりやすい。言葉だけが先行して実践になかなか繋がらない学校現場にとって参考になると思う。（福岡県 武末正史）

## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進歩や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。